

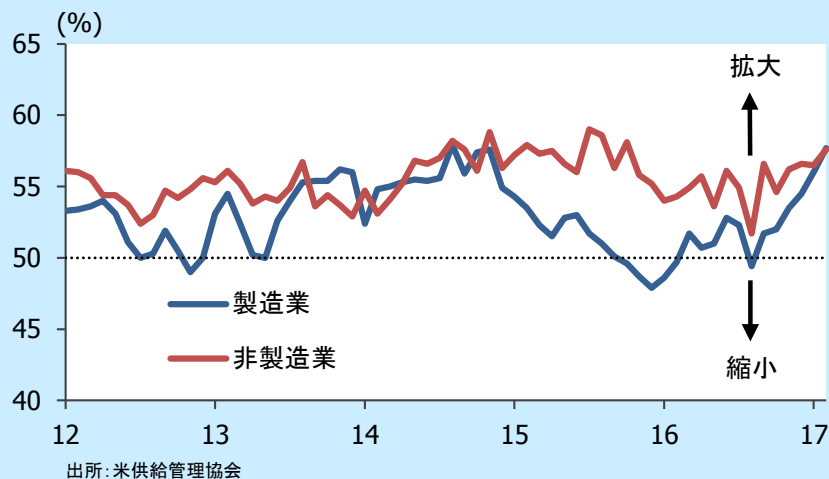
米国：ISM景況指数（2017年2月）

—製造業・非製造業ともに景況感は高水準—

MRI Daily Economic Points

March 6, 2017

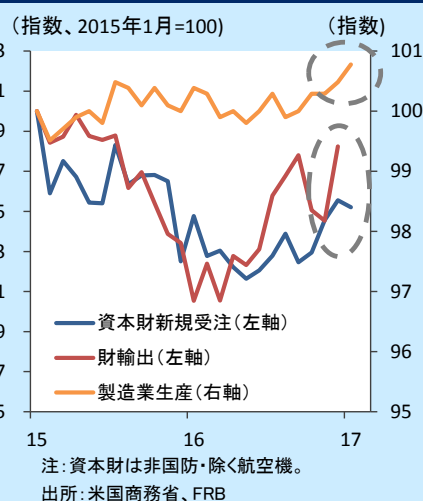
図表1 総合指数



図表2 経済活動の拡大業種数



図表3 新規受注・輸出・生産



評価ポイント

今回の結果

- 2月のISM製造業景況指数(総合、3/1公表)は、57.7と前月(56.0)から上昇。2014年8月以来の水準にまで回復した。
- 項目別にみると、新規受注(65.1)が大幅に上昇し、2009年8月以来の水準まで回復。全体を押し上げた。また、在庫調整圧力が緩和する中、在庫(51.5)も高い伸びとなり、20ヶ月ぶりに拡大・縮小の分岐点である50を上回った。業種別では、18業種のうち17業種が50を上回り、ほぼ全ての業種で活動が拡大した(図表2)。
- 2月のISM非製造業景況指数(総合、3/3日公表)は、57.6と前月(56.5)から上昇。非製造業の景況感は、高い水準で推移している。
- 項目別では、ビジネス活動(63.6)、新規受注(61.2)が60前後と高水準で推移。業種別では、16業種が50を上回り、幅広い業種で活動が拡大。ただし、トランプ新政権が主張する移民規制の強化の影響が大きい情報産業は17年入り後、2ヶ月連続で50を下回った。

基調判断と今後の流れ

- 製造業は、①2014～15年にかけて進行したドル高の輸出押し下げ圧力の一巡、②在庫調整圧力の緩和、③国内における財消費の伸び加速、④トランプ氏の経済政策への期待などにより、景況感が回復。製造業関連の経済指標は16年半ば以降、改善している(図表3)。非製造業も、内需の堅調さを背景に良好な景況感が続いている。
- 先行きも、堅調な内需に支えられ、企業活動の拡大基調が続くと予想する。企業活動の先行指標である新規受注の改善も景況感を下支えするだろう。
- 下振れ要因は、①関税の引き上げなどトランプ新政権が保護主義化を強める場合、輸入コストの拡大や輸出への下押し圧力につながる可能性がある。また、②トランプ氏に政策に関する不確実性が続く場合や、③減税やインフラ投資が期待していたほど進まない場合には、景況感が悪化しかねない。